時事新報

過日米國學士ドクトルシモンズ氏の手に成りたる英文日本文明論を譯出して貴社に投じたるに直に掲載を得て滿足に堪へず今又同氏の社會論一篇を見るに議論周到我國情に適切なるもの多し依て譯出て貴社に投じて社會改良論者の參考に供せんとす掲載を得ば幸甚

譯者誌

日本社會論

伊吹雷太譯

今日日本の天地に瀰滿し甚だ強大急劇の速力を以て一般に流行する各種の改革變化は學者社會の一大問題なり或る論者は之を悅び此等の變革は都て日本人民將來の幸福繁榮の爲め甚だ必要なりと贊成するものあれば或る學者は之に反して曰く否な此變革中に就き或る事項の如きは寧に必要便益なきのみか國家人民眞成の幸福を害するものなりとて駁論するもあり

抑も日本國人が數百千歲の間ろの洞門を鎖して武陵桃花の春に鼾睡の最中一朝浦賀の砲聲に夢と破られ倉皇國を開て交を歐米諸國に求め從來の封建制度を轉覆して王政維新の大業を仕遂げたるは實に世界の歷史にも例なき政治上社會上の變動なり此際日本人は何を爲すべきか、何を爲す可らざるか、如何なる風俗習慣い保存すべきか、如何なる歐米の事物は模倣す可きかと判知明盲すること甚だ困難にして一方には常に事物の改良に熱し腦中一幅れ空想を畫きて前途の望洋々なる自由黨(Liberal)或は日本近時の有樣に適切なる語を用ゆれば即ち改進黨(Progressive)と他の一方又は能く事物の表裏兩面を吟味して其物の利害得失を比較し却て其變通に躊躇する所れ保守黨と此兩黨の間に議論を異にするのみならず雙方自家の議論又も一定の見なくして朝變暮改秋天の有樣あるは日本の事情に於て然らしむる所にして又止むを得ざる次第なる可し

今余は此各種の變革は日本の爲めに果して如何なる結果を奏す可きやを論ずるに當り先づ左の二項に大別せんとす

第一項　實質的の變化即ち鐵道の築造、電線の架設、汽船の構造等は如し

第二項　社會上れ變化即ち一國の風俗、一家の慣習、衣服飲食居住等の如し

而して此の編に於ては社會學の範圍に屬する第二項の變革に付て論議せんと欲するあり

東洋諸國が國を開て西洋各國と通商貿易を始めし以來其事物にて歐米人を益せしもの素より尠からずと雖も就中日本支那に成立現存する所の家族の仕組(Family organization)い社會學と請究する學者又甚だ大なる利益を與へたり余は此等の社會學士が其學問の主義定說として一般に承認する諸說を掲けて議論の基礎とせんとす

第一義　家族は一國社會の基礎なる事

第二義　繁榮幸福れ社會は必ず繁榮幸福の家族より成立するを常とする事

第三義　家族は各國殊に東洋諸國文明の分子基礎なる事

第四義　一國政府の基礎は其國人民の風俗習慣に存し其風俗習慣れ良否は家族の仕組如何に存し而して其家族の仕組の如何は主として其家母に存する事

第四義として掲げたるものには支那有名の古學者ローチュー(Luachau)の書に於て發見したるものなり西洋社會學の書に於て之を引用せしものと見ずと雖も其根本い全く此定義と一致して違はざるが故にローチューの言は千古の確論にして社會學の一新主義とするの價ありるを信ずるなり而して日本人が自國固有の風習殊に一國文明の基礎分子たる家族の仕組をも破壞し去て歐米の風習と模倣せんとするの今日、社會學理的より深切なる考案を下して之を講究せるは甚だ大切なるなり

通常の外國人にても久しく日本に滯在して其事情に能く親炙せるものい日本家族の仕組を見て歐米家族の仕組よりも遙に立勝れたる處あるに心付くほどなるに其主人たる日本人が歐米各國の風俗習慣に心醉して是非善惡を識別するの明を失い自國固有のものにまれ破壞放棄し去るの狂態は恰も數年前日本美術に深奥靈妙なるとまろを書き出せる異に貴重すべ兇書畫類を無用の故紙として層屋に賣却しさるれ奇談と同一轍なり迚西洋の識者は竊に之を冷笑せざるものなし

日本人は實に夢想にも知らざるみならんなれども靈と申せば歐米各國れ家族れ仕組は彼の社會に行はるゝ諸の仕組の中にて最も宜しからず人事の最も不完全なる部分なりとして憂る所のものなり之に反して日本の家族の立勝りたる部分を揭れば先づ一家の父母が其子孫の言行を教訓し又親類縁者が相互に其行爲を規制をて一家一族れ平和秩序を維持せる慣行より其子女が唯ゐ幼稚の時のみならず成年に至りても常に父母の命を重んぜて恭順なるが如きは實に日本特有の美事なりと

凡そ一家の子女が其父母ゐ對して恭順なるは甚だ大切ある事にして家内の秩序も之に依て整理し平和も之に依て得らる可きものなれば素より一家々政の基礎なることが言と待たずして明なる可し左れば此恭順の美德を微弱にせるものあらば其物は即ち一家の秩序を破り平和と害するの禍源たるやも亦疑なかる可し然るに第二の定義として述べたる通り凡そ繁榮幸福れ社會は必ず繁榮幸福れ家族より成立せるものなれば其家族の安寧幸福を害せる不恭順れ行を導く其物い即ち亦一國社會の安寧幸福と害するものなりと云はざる可らざるなり

余は前に社會の定義とする價ありとして掲げたる第四義に遷りて是れより婦人の性質權勢地位ゐ論及せんと欲す

（以下次號）

官報

○遞信省告示第百五十五號

定稅遞送ヲ認可シタル定時刊行物ノ休廢刊又ハ改題ノ義屆出ノ際ハ當初其認可シタル年月日ヲ之レニ附記スベシ

明治二十年九月二日　遞信大臣子爵榎本武揚

（本年九月二日官報）

雜報

○海防費獻納　從四位侯爵前田利鼎氏より金五萬圓、東京府平民川崎正藏氏より三箇年賦上納にて同一萬二千圓、長崎縣平民高見猪三郎、青森縣平民泉山吉平、三重縣平民服部源三郎の三氏より各金千圓、青森縣平民橋本八右衛門氏より來る廿一年十月迄同廢上納の筈にて金千圓、長崎縣平民松田勝五郎氏より三箇年賦上納の筈にて金千圓、海防費の内へ獻納願ひ出しゐ就れも一昨一日を以て開食届けられたる由

○勳章　維納よりの報に據るに此頃墺國政府は其造幣局に命ぜ銀及び青銅にてアレキサンダー王の肖像を彫刻せる軍用勳章六萬を製せし先之をバルガリヤの軍勢中に分配すると云ふ

○獨逸の戰備　獨逸にては白耳義との境界に二十六輛（一輛五百人を容る）の列車を備へ置かんが爲め此程其入置場を設置したりとのことにて物々しき擧動頻あるより佛國巴里某新聞の通信員は斯く獨軍が即時に兵隊を繰出すべき樣戰備をなすは白耳義の都府アンベルプを襲擊せんとの深意あるものなりといへど又他の通信員の云ふ所によれば獨軍の盛んに戰備を整ふるは事實に相違あれども去りとて理非もなく口實を設けて急に攻擊すべしとは思はれず何とあれば獨軍は如何に死力を盡すとてもアンベルプは旬日にして俄に陷落すべきあるあらず又一方に佛國と戰端を啓くは於ては此所に充分の力と用ゆる能わざればなり去りとあが獨逸にては前の如くミュースに於て出師の準備となすと共にカルメデー、エーラシャペル（共ゐ白耳義との境にあり）ゐる頻りゐ緊急態度の戰備をあし又た此頃は英國に向て莫大なる輜耳の注文をなしゐる由にて是は英國より路を白耳義のオステンド港に取りストラスバルグ、メッツ、コローン（共に佛國の境ゐあり）の各兵營に送るものなりといふ其上此等の兵營にては猶盛々兵備を盛にして今にも事あらんず勢あるが扨獨逸人民の心底如何ゐと尋ぬるに決して戰爭を好むものにあらず佛國は吾に向て無禮を加へざる限りは吾より求めて戰端を啓く可ふずとは一般の輿論あれば亦た容易に破裂するには至らざる可けれども其敵愾の情に至ては實に甚だしく此程もアルサースローレン（舊は佛領今い獨領）に於て生れたる二人の米國人が獨逸に恨を含む同地方人民の心を察し其爽情を憐みたりとて獨政府の捕縛する所となり一人は數週間の禁錮ゐ處せられ一人い同地立退を命せらるゝたりといふ

○バルガリヤの攝政官　八月四日倫敦發の報に據るに此頃露國はイメリナンスキー王をバルガリヤの全權攝政官と爲せべきと申し出したれども此申し出しいツヒヤに於てい贊成する者なしと

○砂土臺　日比谷練兵場近邊一體の地面は其の地盤軟弱なるを以て廣大なる建物に適せずとの議ありて國會議事堂及び諸官衙を同地ゐ建築するの計畫も之が爲め見合せになりたるやれ說もありしが此程漢來したる獨逸某建築師の說ゐ地盤の軟弱なるが爲めに建築をなす能はずなるとは畢竟學術利用と知らざるの罪なり如何程軟弱ある地盤上ゐても廣大なる建物を築造し得て殆ど學理の效力ゐ顯はるべきなり軟弱ゐる地面ゐ之を穿つゐと數丈一面ゐ細砂を塡充し之に地形を施したる上に建築となすときは砂の彈力ゐよりて如何ある廣大の建物にても安全に維持するのみならず地震其他の災害にも總て無難なり之を砂土臺と稱し歐洲などにては此流の建築甚だ少かゐず日比谷近邊の地面如何に軟弱ゐるゐゐの建築法によるときは決して廣大ゐる建物に堪へざるの理ゐしとて今度山下町に新築する大ホテルは專らこの方法を用ひるよしにて既に地面の穿掘に着手中ゐりといへり

○山陽鐵道會社　にては本年五月中より神戸下ノ關間日本里程自三十里の鐵道線路測量に從事し至極其捗列を急ぐを以て三十名の技術方を五六隊に分ち各其受持の區を割當て一時ゐ各地方に派遣し日夜業に就かしめたるにより案外に事の捗取早く神戸以西廣嶋までの間に出張し居さる技術方は四五日前より追々神戸に歸り來り目下宇治川町の最中なり又廣嶋以西下術方も最早其地方ゐ繰出す者神戸ゐ歸り來るべし日を以て發起人總會を條例に照らして同會社規加入等に關せる數箇長中上川彦次郎技師大を發して岡山に赴き此地位を考定する筈なり數名の社員を東京の事務見習生を當地鐵道習はせ居るよし其人々、谷本鉞太郎、神保速次過般英國へ注文したる圓）は遠からず到着す鐵道局構内高濱の明地十間の倉庫一棟を至急通信）

○長崎水道會社　の發西濱町清洋亭に集會更ゐ再會協議すべし制定をることなり灣口

○靜岡事件の上告公判内獨り小山德五郎は而し爲に大審院に上告判を開廷するゐ付一昨繁三氏に命ぜたり

○縣合茶業相談會　を本月二十五日より開に付ては本年各地方ゐ歸へ派遣せし傳習生も專業とゐし居れり然る巡廻れ折柄親しく

○鯨獵の詳報　去月一氏の發明ゐ係る捕鯨器鯨魚を漁獵したる事は器が斯く小さくなる工夫一通れ良好のものゐるることなく全國中の海も多き事故水產上の大しと廣く歐米各國れ達ルス氏の發明せしボンにも適當のものならん

栗野忠雄譯述
スウヰントン氏
第二讀本直譯
原音附發音ノ解說附●全一冊定價金六十錢郵税支辨●賣捌書肆東京芝區三丁目岩本米太郎●丸善書店●博聞本社●桃林堂●其他各書肆●
本會教授筆記法與傍聽筆記（事故遺會）卒業日子違少ノ全異成立通信二週通學一週謝儀返戻ス爲メ疑惑ヲ受ル不少故先般體明ノ爲千部無代郵送廣告以來早キ其數ヲ超過シ尚陸續申込有ニ依リ特別投入會金十錢郵券二錢（郵券二割增）送甲教科誌說明書●支會教授所麹町區下二番町七十一番地●有志者ハ至急申込アレ
東京府學務
菱江名和先生
小學校習字